

速記録

第64回鴨川府民会議

日 時 令和6年6月21日(金)

午後 1時30分 開会

午後 3時00分 閉会

場 所 京都ガーデンパレス 2階 「葵」

[午後 1時30分 開会]

1 開 会

○藤田（京都府建設交通部河川課参事）

それでは、定刻となりましたので、ただいまから第64回鴨川府民会議を開催いたします。
皆様、本日は、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。本日の進行役を務めさせていただきます京都府河川課の藤田でございます。よろしくお願いいたします。

それでは、座って進めさせていただきます。

本日は、新川副座長様、梶田様、田中様、田端様、二條様、澤様が御欠席でございます。

また、諏訪様、土居様が遅参されるということで伺っております。

次に、お手元の資料の確認をさせていただきます。本日は資料として、次第、出席者名簿、右肩に番号を打っております資料1から9を用意しております。

不足等ございませんでしょうか。会議の途中でも結構ですので、不足がございましたら事務局にお申しつけください。

次に、事務局からお願いがあります。鴨川府民会議につきましては、鴨川の河川環境の整備及び保全に関する事項について建設的な議論を行う場として皆様をお願いしております。発言に当たっては、この趣旨を十分踏まえていただきますようお願いいたします。

また、なるべく多くのメンバーに発言していただけるよう、御協力をお願いいたします。

それでは、議事に入りたいと存じます。金田座長、よろしくお願いいたします。

2 議 事

○金田座長

早速議事に入らせていただきますが、私もマスコミで聞いただけなんですけど、梅雨入りしたという話なのに、外はさんさんと太陽が照っていて夏のような感じのことですが、これからは鴨川も水位の変動がきつく大きくなる時期でもございます。いろいろな御意見承っておりますが、本日またどうぞよろしくお願いいたします。

早速ですけれども、議事に入らせていただきます。

本日、議事、その他を含めて6件ございますが、まず、議事の（1）令和6年度の鴨川等の整備につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

○濱口（京都府京都土木事務所河川砂防課長）

それでは、説明させていただきます。私、この4月に京都土木事務所の河川砂防課長を

拝命しました濱口といたします。よろしく申し上げます。

それでは、資料1を御覧になってください。箇所に番号を振ってなくて説明が難しいので、上流から順に、今年度の鴨川・高野川の整備工事の内容につきまして説明させていただきます。

まず、高野川の上流です。八瀬小学校がございませけれども、小学校の対岸になります。現在は天然護岸で、非常に荒々しくていいですが、浸食が進んでおりますので、今年度護岸の工事を予定しております。

次に、鴨川の上流です。志久呂橋から賀茂川通学路橋にかけてでございます。数年前に、一度浚渫はしておりますが、経年の出水等によりまして土砂の堆積が進んでおりますので、この区間につきまして浚渫を予定しております。この区間には、利水されている方や漁業関係者もいらっしゃいますので、工事着手前には調整をさせていただきながら工事に入ってまいりたいと思います。

それから、下流に参りまして、北大路橋から出町橋までの間の東側、左岸でございます。こちら、遊歩道がございませけれども、遊歩道の舗装が劣化してまいりましたので、今年度、右岸側と同仕様の舗装で補修を予定しております。

それから、三条から四条、ピンクで点線にさせていただいておりますけれども、こちらは後回しにさせていただいて、さらに下流に参りまして、JR・新幹線の辺り塩小路橋下流の左岸です。石積護岸がございませけれども、こちらのほうも整備後数十年たっており、河床の低下とともに基礎部分が露出しております。この区間につきまして、今年度、基礎の部分だけコンクリートで固めるという根継工事を予定しております。

それから、最下流でございます、京川橋より下流です。こちら、整備計画に基づいて、現在、河川断面を拡幅する工事を進めております。下流から進めてまいりまして、今年度は京川橋のすぐ下流、左岸、右岸の両側ですけれども、護岸の整備を予定しております。

1点付け加えて説明が必要な箇所がございませ。桂川との合流の突先の部分ですけれども、黒い線も切れておりますけれども、この部分、国交省と協議が調いまして、今年度から工事を予定しております。京川橋より下流につきましては、令和7年度に、工事を完了したいと考えております。それ以降は、鳥羽大橋から下流、京川橋の上流に主な工事をシフトしてまいりたいと考えております。

それで、先ほど説明を後回しにさせていただきました三条から四条の右岸、西側についてでございます。写真は、ちょうど雨上がりですけれども、土系の舗装を以前整備しまし

たが、荒れており、写真のように水たまりができたり、掘られた土が軟らかい状態で現地に盛られている状態で、ちょっと走行しづらくなっています。また、土埃も影響が出ているというふうに聞いております。

こちらにつきまして、現在、園路補修の検討を行っております。表面の土系舗装より下の基礎の部分につきましては十分健全な状態で残っておりまして、表面について、施工性であるとか周辺的环境との調和性とか、利便性等を考慮し、舗装の更新を検討中でございます。現在、今年度から着手できればと考えています。

また、本件につきましては、次回のこの会議でも検討の進捗についても報告させていただき、ご意見もお聞きできればと思っております。

簡単ではございますが、今年度の鴨川・高野川の主な工事について説明させていただきました。

以上でございます。

○金田座長

ありがとうございます。

京都土木事務所によりまして、令和6年度に鴨川、高野川の整備予定がありますものにつきまして説明をしていただきましたが、何か御質問とか御意見等がございましたらお願いいたします。お願いします。

○中村

中村です。今、御丁寧な説明をいただいたんですが、全く私的なことになりましてけれど、三条から四条の間、ここは大丈夫です。京川橋から下流、特に京川橋から下流の右岸、左岸のどこなんですが、それと塩小路橋の下流も含めてですが、河川整備をされるときに、同時にトイレをつくっていただくわけにはいかないでしょうか。というのは、四条まではたしか京都府がトイレの場所を赤ぽちんいただいた資料を持っているんですが、四条から下流というのは、私たち観察会をするんですけど、トイレがないからといって女の人に来てくれないんですね。だから、下流を整備されるに当たっては、トイレをちょっと頭に入れていただいて進めていただきたいと思います。

以上です。

○金田座長

ありがとうございます。

トイレが四条から下流にはないから考えてほしいという御要望でございますが。

ほかにいかがでございましょうか。

○川崎

先ほど三条四条間の舗装の検討と、それから出町橋北大路橋間の舗装の検討というのはあったんですけども、舗装を検討されるときに、それぞれの箇所でも地域特性というのはあると思うんですけども、この全体を通じてどういうふうに、例えば連続性とか基調のようなものというところ、続いていく部分と、それからどこかで自然が強くなる部分とか、何かゾーニングというか、切り替えて、全体のトータル、補修のデザインというものを明確にされた上でこれを検討されたほうがいいんじゃないかなというふうに思っております、当然御検討されていると思いますけれども、またよろしく申し上げます。

○金田座長

ほかに。お願いいたします。

○戸田

戸田です。丁寧に御説明いただいて、よく状況は分かりました。ちょっと2点ばかり聞きたいんですが。

1つは、高野川の八瀬小学校のところの護岸の修繕とか、もう1つ、塩小路橋の下流左岸の護岸の根継工のところの補修とか、これはちょっと一般的な整備よりもかなり具体的に、かつ、かなり大きなような印象を受けるんですが、これは何か最近の洪水等で起こったことなんでしょうか。それとも、以前からあったけれども今回時間を置いて進められるのか。その点だけ教えてください。

もう1点は、鴨川の庄田橋の辺りの堆積土砂の撤去をされますが、これはもう長年場所を考えながら堆積土砂の撤去、整備なんかを進められているのはよく存じ上げていますが、今回のこの場所、かなり何かその川幅に対して土砂の塊が大きいようなんですけども、特別な理由か何かあったのかどうか。その2点教えてください。お願いいたします。

○濱口（京都府京都土木事務所河川砂防課長）

よろしいですか。今、戸田先生のほうからいただきました御質問に対して説明させていただきます。

まず、八瀬小学校の部分でございまして。ここ数年、大きな出水は起きておりませんが、やはり25年の台風以降、浸食がどんどん進んできたということです。背後に山道があるのでありますが、そちらまで浸食が進んできているということで、今回、工事着手に踏み切ったところです。

それから、塩小路下流の護岸補修（根接工）と書いてある部分ですけれども、この区間、全体的に河床が下がっております。その中で特にこの塩小路橋付近は経年の川床低下によって基礎が露出してきたというところがございます。

それから、浚渫でございますが、こちら、数年前に浚渫したときも、いろいろ流況を試しながら実施した経過がございます。下流のほうでは、上賀茂神社、明神川の取入口がございまして、そちらの取水がうまくできるよう調整をしながら浚渫した記憶がございます。川の形状の関係もあり、鴨川では土砂が堆積しやすい場所であると思っております。

○金田座長

戸田委員、よろしいでしょうか。

ほかに何かございますでしょうか。お願いします。

○中村

舗装と護岸に関してなんですが、流域委員会のときにも私お願いしたんですけれど、三川合流から淀川のほうを見ると、護岸がもういろいろと分かれて、まるで護岸工事のサンプルみたいやなと言ったんですけど、鴨川としてのもっと一貫性を持たれるような、護岸と舗装工事なんかもですけど、進められないものかなと思います。今、塩小路橋のところも戸田さんがおっしゃいましたが、その上に石が積んであるわけですね。そしたら、この石積み、私らは石積みが好きなんですけど、石積みを徹底するんだったら石積みの護岸というふうに、鴨川の護岸方法みたいなのを決められたらいいのになと私は思います。

以上です。

○金田座長

京都土木事務所のほう、もし何かお答えできるようなことがありましたらお願いします。

○濱口（京都府京都土木事務所河川砂防課長）

いただいた御意見、できるだけ取り込めるような形で検討してまいります。

○金田座長

ほかにいかがでしょうか。

いずれにしても、鴨川のほう、いろいろと計画的にやっけていただいております、それにこの民間委員からも御意見を申し上げているという状況ですが、引き続きどうぞよろしく願いをいたします。

それでは、議事の2番目に移らせていただきます。三条大橋にけるライトアップの明るさ低減対策についてでございます。

事務局から説明をお願いいたします。

○角南（京都市橋りょう健全推進課長）

失礼いたします。京都市の建設局橋りょう健全推進課の角南でございます。着席して御説明させていただきます。

資料のほうを御覧いただきますようお願いいたします。

三条大橋におけるライトアップの明るさの低減対策ということでございまして、前回の会議のほうでも御説明したように、三条大橋のライトアップにつきましては、夜間景観づくりの実証実験時のアンケート等においても、まぶし過ぎるといった御意見をいただいております。当会議においても、前回、同様の意見をいただいていたところでございます。

それを受けまして、昨年度より、当会の川崎先生にも御協力をいただきながら、現地にて実験を行うなど、照明の明るさを低減する検討を進めてまいりました。その結果、実験の結果等を踏まえまして、LEDの照明灯に明るさを低減する減光シール、フィルム状のシールでございますけれども、それを設置して明るさの低減を図ったというところでございます。

結果につきましては、下に写真をつけておりますけれども、シールの設置によりましてライトアップ全体の明るさが低減しております。歩道側の高欄の下における照度でいきますと、大体90%程度カットしたというところで低減を図ったというところでございます。

以上でございます。

○金田座長

前に御説明いただいたところ、意見を踏まえまして、照度を低減していただいたということでございます。

何か御質問などございましたら、お願いします。

○中村

京都市さんにお伺いしますけど、前の会議は3月でしたね。3月でしたっけ。そのときまぶし過ぎるといふ意見、出ましたっけ、この会議において。

○角南（京都市橋りょう健全推進課長）

まぶし過ぎるといふ意見につきましては、アンケート等でもいただいております。

○中村

アンケートはいただきましたけど、書類で送っていただきましたけど、この会議ではそ

ういう意見は出ていませんよね。これ、全部読ませていただいても、まぶし過ぎる対策だけということになりますけど、私たちの意見はどうなったんですか。消えましたか。この会議で出た意見、今、要点だけでも幾つかで結構ですので言っていただけませんか。

○川崎

それでしたら、ちょっと京都市さんと私、このデザインの監修をしていますので、私のほうから補足をさせていただきたいと思いますが。

まず1つは、前回の会議では照明の専門家の方々に来ていただいて、私たちも監修のときに専門家の方々と併せてやったんですが、前回御指摘いただいたのが明る過ぎるという、基本的に明るい。京都らしいほんのりとした形にしてくださいということは本間委員のほうから御指摘をいただいていたと思います。それがその明るいという表現そのものが、要するにルクスが明るいことによって、その明るさによって光というのは目の中に入ってくるので、これ、表現の問題だけでして、まぶしいというのは明るいという意味を含むというふうに我々捉えています。

それで、まずはLEDそのものの、もともと歩道側のほうは明るさとかまぶしさを低減するように角度を変えて光の形とか路面の当たり方は調整していたんですけども、こちらの外側の高欄側のほうというのは、前回の御意見もあったんですが、調光、例えばあの施設をすることによって明るさのルクスとかまぶし過ぎるルクスみたいな、まぶしいということも概念も含んだ上で調整してはどうかという御意見いただいていたんですけども、その調光が調光施設が取れないので、それで、直接この光源のところ、要するに光の量を制限することによってほんのりとした京都らしい明るいものが出てくるというふうには調整をしました。

そのときに光の量の透過率が10%から大体30%ぐらいまでの間でいろいろと調整をしたんですが、実は透過率とそのまぶしさとか明るさという概念があんまり関係ないというか、かなりの効果は出たんですけども、実験で何とか実験させていただいたんですが、それが出なかったために、もう一段階いかないとほんのりとしたというイメージがないので、それじゃ、今度は透過率が若干高くても着色したものをメーカーさんに作っていただいて、それでやることによって実際の、前回指摘された明る過ぎるとか、ほんのりとした京都らしい色合いというのが出せないかということを検討した上で、今回このような形にさせていただきました。ちょっと補足させていただきました。

京都市さんのほうからもし補足があればお願いします。

○角南（京都市橋りょう健全推進課長）

基本的には御説明いただいたとおりでございまして、実験を2回ほどさせていただいて、御意見いただいている明るさを抑える調整をさせていただいたものでございます。

○中村

すいません、もう1回だけ。京都らしいというのは私の意見なんですけど、そのときに明る過ぎるといふ意見が出たの、私は全然頭に残ってないんですよ。京都らしいとか、例えば水面に照らすライト、これは要らないんじゃないですかというふうなこととか、橋の上ですか、下ですか、ぴゅーっと一直線にライトがついているんですけど、それもちょっと考えものやなというふうなことを言ったんですけど、ここに書いてあるのでは、私たちの意見は一切書いてありませんよね。まぶし過ぎるといふ私が知らないところで聞いたような意見だけなんです。何かライトアップに関してすごく悲しいです。

○本間

すいません、ちょっと横からみたいなきもちになるんですけど。実は私、ちょっと明る過ぎるとかまぶしいとか、この橋についてはちょっと申し上げさせていただいていたと思うので、その点はちょっと、御記憶は、すいません、私確かに言っていたと思いますので、その対策としてやっていただいたことだと思います。

あと、ここからちょっと私の意見なんですけど、ちょっと揚げ足を取るようなことを申し上げて大変恐縮ではあるんですけど、照度が90%低減したということは、90%のエネルギーを無駄に今使っているということになっているわけなんですよね。これ、行政のやる改善工事として果たしてこれが本当に適切だったのかということ、やっぱり触れるべきではないかなと、そこを思うんですよね。

それと、そうなっちゃったことについては・・・ということになっちゃうんですけど、やはり橋を造るとか建物を建てるとかということに比べて、何かを光らせるってすごく簡単にできちゃうことじゃないですか。例えば素人だと絶対に橋なんか造れっこないんですけど、照明器具さえあれば素人だって何か照らすことはできますよね。なので、光環境のことを非常に簡単に考えてしまいがちだというのが今世の中の問題にもなっていると思うんですけど。

ぜひ、やはりこういった取組をするときには、先ほど川崎先生のほうから専門家の御意見も・・・というお話もありましたけど、せっかく前回も来ていただいた面出さんに景観ガイド、夜間景観ガイドを作っていただいているような京都市さんでいらっしゃるので、

やっぱりその流れというか、同等レベルのきちんとした方にコンサルなりして、よりよいものをつくっていくように考えていただきたいなというふうに私は思います。

○川崎

ただいまの御指摘、非常に重要なことで、エネルギー効率の問題というのはこの数年前から橋りょう課のほうで、私もいろいろ干渉してきたんですけども、それは全面的にやっぱり入れないといけないということで、基本的にLEDをそのまま、できるだけLED照明に替えていくというのが1つの基本だと思っていたんですね。

ただ、LEDが、先生も御専門なので釈迦に説法なんですが、ライトの光源プラスこの柱から全部取り替えないといけないとか、メーカーさんのほうで標準のものはなかなか作り切れないところもあったんですけども、今までの過程の中ではできる限り、照明開発でありその特注で全部やるというのはコストも物すごく大きくかかりますので、京都標準というものの中でLEDを効率化したもので型のようなものをつくって、それをできる限り幾つかの橋が事業が重なりますので、そこでコストアップにならないような工夫というのをメーカーさんと一緒に考えていくということも大事だというふうに思っていましたね。

先生の建築のほうの設備のほうとかでそのあたりをいろいろ工夫されていますので、ぜひともまた御意見、先生御専門なので御意見いただいてまた反映させていただければなというふうに思っています。

○本間

ありがとうございます。今いただいたお話にちょっとまた補足させていただきますと、かつての光源で、例えば舞台照明でもそうなんですけど、フィルターワークって、フィルターをかけて色温度を変えたりとか色を変えたりカラーチェンジするという取組がずっと進められていたんですけど、フィルターの欠点は、当然出てくる光が減るわけですからかなりエネルギーの損失があると。

それで、LEDはいろんな色の光を出すことができますし、また、調光もできるということで、川崎先生おっしゃっていますように、今、善後策でということ考えると、やっぱりもうここに帰着するというのはもう致し方ないところではあるかなと思いますので、そういう意味で、揚げ足を取るようなこと・・・として意見を申し上げさせていただいたんですが。

○川崎

いえいえ、とんでもないです。

○本間

ですので、次回以降というか、今後の取組においては、最初からどんな色温度の光源を使うのかとか調光装置をどこにかませるのかとか、そういったことをきちんと計画してやるということが大切じゃないかなと思います。

○川崎

これ、日本で最大限明るくないLEDを選んだつもりなんですけど、それ以上の製品が出てなかったんですね。そこからちょっとスタートしていきまして、できる限りメーカーさんにももっと抑えたようなLEDの、この明るさを抑えたものですね、製品を。京都からとか伝統的な都市というのはそういうものが大事だった。確かに陰影礼賛というのはすごく大事な精神と思っていますので、できればまたその範囲でしたいと。すいません、私が勝手に。申し訳ない。

○金田座長

どうぞ。

○角南（京都市橋りょう健全推進課長）

今、川崎先生からも御説明いただいたところなんですけど、ここに設置しやすい形状のものでは一番暗いタイプのものを選ばせていただいたというところではあります。私どもも事前に実験はしたんですが、時を経て黒くなった木と真っさらの白い木との違いというのが十分認識できていなかったというところも反省すべきところかなと思います。また、先ほど本間先生からおっしゃっていただいた調光の部分といいますか、電圧を下げることも、そういう製品もあったのはあったんですが、その場合は制御器が数多く必要になるというところもあって、最終的に置く場所の問題等でここに行き着いたというところもございます。

今後は、いただいた御意見も参考にしながら整理をしていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

○金田座長

丸尾さん、何か手を挙げておられませんでした？ よろしいですか。

○丸尾

この間の会のまた同じことを言うてしまうことになると思うんですけど、中村さんの御指摘は、私はちょっと違和感があるのは、私は本当に普通のもう一京都市民として、この

三条大橋を2日間、1日は雨降りの日やったんですけど、もう1日はお天気の日を夜に限って四条から三条までを歩いていろいろチェックさせていただきました。そのとき、本当にこのまぶしいということもありますし、明る過ぎるということもありましたし、四条から見て三条大橋の直線の照明はとても違和感がありました。そのこともこの前の会のときに申し上げました。

それと、それと対照的に四条から三条までの鴨川の東側があまりにも真っ暗過ぎて。西側のほうはいろいろお店が明るい暖かい照明をずっとされているので、1人で歩いていても全然危険も感じませんし、とても温かい皆さんがお食事していらっしゃる姿とかも見えますし、京都らしいなと思うんですけど、ふっと東のほうを見ますともう真っ暗なんです。それで、1台自転車が小さな明かりをともしてずっと通り過ぎてきましたけど、もう本当に真っ暗で。三条大橋に近づいてきたら、そのちょっと手前ぐらいからは東側も照明がありましたけど。それと、四条大橋の下が真っ暗けでした。そういうあまりにもちょっと極端な世界があそこで展開していたので、それを申し上げたと思うんですけど。

私はこの、何というのかな、もうちょっと何か文章を詳しく説明していただけたらよかったかなと思います。これは、専門的なその照明のことは分かりませんが、こういうちょっとおとなしい照明になったことはとてもうれしいなと思っております。ありがとうございました。

○金田座長

ありがとうございます。

ほかに御意見ございませんでしょうか。

○杉江

三条大橋が今回出ているから、その件についてちょっと。せんだって合同パトロールのときに、啓発と清掃活動やっているときに、三条大橋、もちろんきれいになったということで、よくずっと橋を渡ってみたら、高欄の一番下のところに隙間があるでしょう。あれ、たしか10センチぐらいあったと思うねん。そこで多分空き缶とかそんなんをぽんと蹴って即下流が、もちろん北側のもそういうふうになっていると思うんだけど、結構ようけごみがあるんですよ。だから、あれ、多分足でぽんと蹴って中に入れとると思うので、下のところ、ネットか何か張るようにしたらどうかなと思って。あれ、ちょっとぐっと潜って取ったんやけどね。多分そこは皆さん見ておられないと思うんだけどね。結構ようけ落ちてたので、それを何か止める方法を考えていただいたらどうかなと思ってます。

○金田座長

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

じゃ、ちょっといろいろと位置づけの観点とか計画性の問題とか、それから、今、三条大橋の隙間のある構造につきましても御意見いただきましたが、またひとつ可能な機会に御検討をお願いしたいと思います。

それでは、次の議事に移らせていただきます。議事の3番目です。「鴨川四季の日」の関連イベントです。

まず、鴨川納涼2024からお願いします。説明をお願いいたします。

○斎藤（京都府観光連盟主事）

お世話になっております。私、鴨川納涼実行委員会事務局を務めております公益社団法人京都府観光連盟の斎藤と申します。本日ちょっと着席にて御説明させていただきます。よろしくをお願いいたします。

鴨川納涼につきましては、昨年もこちらの府民会議のほうで御説明させていただきました、皆様の御理解、また、関係者の皆様の御協力をいただきまして、鴨川納涼2023という形で実施させていただきました。ありがとうございました。

今年度も、資料3のとおり、鴨川納涼2024として、一部見直しを図りまして開催を予定しているところでございます。

見直し内容につきましては後ほど御説明させていただくんですけども、開催趣旨につきましては、こちらは変わらず、鴨川の美化啓発活動として昭和44年から開催され、京都の夏の風物詩として府民や観光客の皆様に定着しているものになるんですけども、平成26年度から京都府を中心とする鴨川納涼実行委員会の主催となりまして、河川愛護・環境保全の啓発並びに府内の観光及び全国の観光・物産の振興を図るために実施しているところでございます。

主催につきましても、変わらず鴨川納涼実行委員会という形で実施しておりまして、今年度につきましては、実行委員長を京都府の鈴木副知事に進めていただいております。構成団体といたしましては、京都府、京都市、京都商工会議所、公益社団法人京都市観光協会、一般社団法人鴨川流域ネットワーク様、鴨川を美しくする会、京都ふるさとの集い連合会様に、そして、当連盟が事務局を務めさせていただいているところでございます。

続きまして、協力の予定なんですけれども、鴨川納涼床協同組合様、先斗町のれん会様、木屋町会、京都府賀茂川漁業協同組合様の予定をしております。

続きまして、開催期間・時間についてなんですけれども、今年度につきましては、令和6年8月3日土曜日、17時から21時、4日日曜日、17時から20時を予定しております。開催時間について、昨年度から見直してございまして、昨年は土曜日、日曜日の両日を17時から21時で開催してございましたが、今年度につきましては日曜日の終了時間を1時間短縮いたしまして、余裕を持った搬出による事故リスクの軽減等を図ってまいりたいというふう考えております。

開催場所につきましては、こちらも例年と同じく、鴨川三条大橋から四条大橋の右岸河川敷を予定しております。

内容につきましては、3つに分かれてございまして、まず、(1)のブース出展エリアでございます。まず1つ目が、本イベントの目的である河川美化・環境啓発エリアとなっております。2つ目が、伝統産業PRエリアとして、染織団体による伝統製品等の即時販売を予定しております。3つ目に、府内市町村エリアといたしまして、府内市町村の地元特産品の展示販売を予定しております。最後に、全国郷土エリアといたしまして、京都ふるさとの集い連合会様、いわゆる県人会様による全国のふるさと製品の展示販売を予定しているところでございます。

(2)ですが、友禅流し、こちらは京都染織青年団体協議会様に御協力いただきまして、友禅流しの実演を予定しているところでございます。

(3)ステージイベントにつきましては、こちらにつきましては、昨年は、ここですね。鴨川ふれあいステージのほうと中央ステージのほう、2つステージを設けておったんですけれども、今年度はその2つを統合いたしまして、中央ステージとして1つのステージを設けることとしたいと考えております。内容につきましては、それぞれのステージで、昨年度やっていただいたような郷土・地域や伝統系の演目、パフォーマンス系の演目を実施していただく予定でございます。

補足として、開催要領に記載していないんですけれども、今年度から飲食ブースというのを設けることにしております。こちらは、昨年、通路で多くの来場者の方が買った物を食べたりですとかというところで滞留が発生してございまして、通行できるスペースが狭くなっていたというところがございます。そこで、今年度につきましては、安全対策といたしまして、来場者の動線確保であったり滞留回避のために飲食ブースを設けて、飲食をされる方に関してはそちらのほうの飲食ブースに誘導する予定でございます。

こちらの飲食ブースなんですけれども、先ほど申しましたふれあいステージを中央ステ

ージに統合するほか、出店ブースのサイズを一部縮小いただくことによってスペースを生み出して、空いたスペースに飲食ブースを設置したいというふうに考えております。

また、今年度から、鴨川納涼2024に御来場いただいた方のうち、鴨川納涼の実施目的に御賛同いただいた方に対して河川美化協力金の御協力をお願いしたいというふうに考えております。こちらで集まった収入に関しては、ごみ処理の費用であったりとか仮設トイレの設置等に使用させていただく予定でございます。

鴨川納涼2024の報告については以上となります。

○金田座長

何か御質問、御意見などございませんでしょうか。

それでは、天気がいいといいんですけどね。これだけはちょっと、天気はどうしようもならないので、天候が悪いときはどうぞ十分に御注意ください。

それでは、もう1件、カモシネマ19でございます。説明をお願いします。

○藤田（京都府建設交通部河川課参事）

次の議題ですが、カモシネマ19、今回、立命館大学の学生さんが有志で40名ほどで開催されるということです。本日は代表者の立命館大学3回生の苅部さんが参加されています。

それでは、よろしくをお願いします。

○苅部（カモシネマ19実行委員会代表）

ただいま御紹介にあずかりました、立命館大学カモシネマ19実行委員会代表を務めております苅部と申します。ただいまから、座ってカモシネマについて御説明させていただきます。失礼いたします。

資料4の内容に沿って御説明させていただきます。

カモシネマは、立命館大学広告研究会のメンバーで構成された団体となっております。「かもあそ」と呼ばれるお子様を対象とした参加型体験企画展示、鴨川やSDGsを知ってもらうという企画展示、鴨川の河川敷の美化活動をボランティアの方々と行うクリーンハイク企画、それから、夜に野外映画上映イベントを実施するなどのイベントを1日に行うことを毎年8月に行っております。

我々の目的、意義といたしましては、鴨川の美化啓発活動、それから、地域の方々との交流を深める、この2点です。今年で19回目となっております、来年以降もずっと続けていきたいと思っており、目標としては、夏の京都の、鴨川の夏の風物詩の1つにしたいというふうに考えております。

去年の実績といたしましては、まず、鴨川を美しくする会の方々や野鳥の会の方々、京都府河川課の方々や土木事務所、それから、京都市のまち美化推進課の方々、左京消防署、下鴨警察署の方々など、大変多くの方々に御協力いただきました。

そして、実績といたしまして、日中企画「かもあそ」・SDGsブースなんですけども、こちら、約100名の方々に御来場いただきました。この「かもあそ」・SDGsブースと同時並行で行われているクリーンハイク企画、こちら、約50名の方に参加いただきまして、共に鴨川や会場付近のごみ拾い清掃活動を行いました。そして、夜企画、野外映画上映会カモシネマでは、悪天候に見舞われながらも約270名の方々に御来場いただきまして、計420名の方々に御来場いただきました。今年は、去年を超えて約500名の方々に御来場いただくということを目指しております。

次に、今年度のカモシネマ19の報告をさせていただきます。今年の日程といたしましては、8月24日土曜日を開催日としております。悪天候の場合、8月25日に実施するという事で、設定させていただいております。

場所は、鴨川公園葵地区いわゆる葵公園で開催させていただきます。

今年度の企画なんですけども、2ページ、3ページの写真をもって説明させていただきたいと思います。

まず、3ページ、こちらは、去年のカモシネマ18で行った際の資料なんですけども、上段2つ、こちら、日中企画「かもあそ」の風景でございます。去年はスーパーボールすくい、お菓子釣り、ジュース配布など、お子様を対象にした縁日企画を行うとともに、写真はないんですけども、葵公園南側にいろんな団体の方々に協力いただいたパネル展示をさせていただきまして、そのパネルをクイズ化し、御来場の方々にパンフレットにして配りまして、クイズスタンプラリーの形で様々な鴨川の美化啓発やSDGsに関しての理解を深めていただくという内容を実施させていただきました。

中段2つなんですけども、こちら、左京消防の方と下鴨警察署の方々にブース展示をお願いしまして、警察車両を使った乗車体験や消防服を着せていただくなど、お子様が喜びそうなどとてもいい企画をお世話になりました。

次に、下段2つなんですけども、葵公園南側広場で野外上映会を実施させていただいた時の様子であります。このように地面にブルーシートを敷いた状態でお客様に来ていただいて、僕たちスタッフとお客様みんなで上映された映画を鑑賞させていただきました。

今年もこのような形でブースを立てて実施させていただく予定なんですけども、縁日に

関しましては、スーパーボールすくい、お菓子釣り、ジュース配布とはまた別の企画を、実施させていただく予定です。SDGsブースに関しましては、今年は水質に関するパネル展示企画を行う予定です。同様に、下鴨警察署、左京消防署にも昨年のような展示を行えるように要請する予定でございます。

クリーンハイクは、私ども立命館大学でスタッフを募集し、応募いただいた方々と一緒に今年も葵公園周辺の清掃を行う予定です。

そして、野外映画上映会なんですけども、こちら、2ページにポスターがあるかと思うんですけども、「リバー、流れないでよ」、こちらを上映させていただきます。京都を拠点とされているヨーロッパ企画さんが昨年公開された作品となっております、出演は、藤谷理子さん含め多数の方々が出演されております。原案と脚本は上田誠さん、監督は山口淳太さんということで、舞台が冬の京都・貴船の老舗料理旅館「ふじや」ということになっております。

鴨川を美しくする会さんともゆかりのある料理旅館ということ、また、ヨーロッパ企画さんが京都を拠点とされているということで、我々のイベントとの親和性がかなり高いということで、この作品を上映することとしました。

昨年は「サマータイムマシン・ブルース」という映画を上映させていただきまして、こちらも同様にヨーロッパ企画さんの作品となっております。こちらの作品を上映するに当たりまして、X、旧ツイッターにて脚本家である上田誠さんからリツイート、宣伝をしていただいたことが御来場の方々の促進となったのではないかなと考えておりまして、今年も上田誠さん含めヨーロッパ企画さんともつながりを持って活動していければなと思っています。

我々の鴨川美化啓発活動、それから、地域の皆様との交流を深めていくこと、この目的の達成のために尽力いたしますので、応援のほう、何とぞよろしく願いいたします。

私の報告は以上となります。以上です。

○金田座長

ありがとうございます。

今の御発言の内容に何か、お願いします。

○坂下

KBS京都ラジオの坂下と申します。本当に企画がたくさんあって、面白いものもたくさんあっていいなと思っているんですけども、ぜひ放送のほうからでも支援させていた

だきたいなと思っていますので、ちょっと幾つか質問させていただきたいなと思うんですけども。

このクリーンハイクというのは、立命館大学の学生さんが中心という感じで、一般の方は？

○荻部（カモシネマ19実行委員会代表）

去年の内訳でいいますと立命館大学の学生が多かったんですけども、我々のSNSアカウント、X、それからインスタグラム、去年はホームページのほうから、この3点から募集もかけさせていただいたので、一般の方々にも多く来ていただきました。

○坂下

日程は8月24日ではないということですか。

○荻部（カモシネマ19実行委員会代表）

クリーンハイクも同様に8月24日に行く予定で、日中企画が14時から17時で、「かもあそ」とSDGsブースをその3時間で実施する予定で、これと同時並行で、クリーンハイクを15時から行う予定でございます。

○坂下

映画も当日行けばという形になるんですかね。事前に応募するわけではなくて。

○荻部（カモシネマ19実行委員会代表）

そうですね。当日に無料で御来場いただく形にしておりまして、日中企画とクリーンハイク、それぞれ参加していただいた方もそのまま、夜19時10分から一緒に映画を見ることが可能としてございます。

○坂下

この映画もとても面白かったので、賞もいろいろ取ったりした映画でもありますし、何かぜひ御協力させていただけたらなと思いましたので。よろしくをお願いします。

以上です。

○荻部（カモシネマ19実行委員会代表）

ありがとうございます。

○金田座長

ほかに何かございませんでしょうか。お願いします。

○杉江

鴨川会、杉江でございます。今の映画のほうの件ですね。ここに書いてあるように藤谷

理子さんという方は、実は当会の3代目の会長に藤谷虎男というものがいました。ちょうど今から44年前にその方から私に白羽の矢が飛んできて、どうか事務局のお手伝いをしてほしいというのがきっかけで、今現在44年になりますけども鴨川のことをやらせていただいていた次第です。実は、理子さんという方は、その藤谷虎男から見ればひ孫になります。

そんなんで、鴨川の会としては、特に我々の時代においては藤谷会長がそれこそ鴨川の会の基礎をつくってくれたというか、かなり人望のある方で、我々そのときは同士という感覚で鴨川の会の活動をしておりました。そして、今現在の古村会長も同じ精神を受け継いで現在に至っているという状況で、何かこのことを僕が知ってから、あ、奇縁だなと思ってね。ちょっとつくづく昔を思い出した状態です。そういったこともありまして、せんだってお孫さんの宏徳さんに電話しまして、こんなんでということで、映画のほうを今度カモシネマで上映されるのでということで、また近々1回寄せていただくというようなことを言うていったので、ちょっと昔を思い出していたそんな状況です。

以上です。

○金田座長

ありがとうございます。

ほかに何かありますか？

○川崎

本当に、一生懸命取り組んでいただいて、環境美化とかこの鴨川への子供さんたちへの情操教育にもなりますので、皆さん若い方々がこれだけ引っ張っていただくということは本当に我々ありがたく思っています。

特にSDGsとかこういうテーマに沿ったものを検討中ということで、パネルがやっぱり中心になるんでしょうか。何か映画のステージとかもあるので、そこで何か例えば公開セミナーみたいなものをやったりとか、屋外で例えばやるようなアイデアとかいろいろあると思うんですけども、今どんなことを検討されているのかなと思うことがあったのと、それから、もしこれを今後継続していくときに何か困ることとか、逆に言うところこういうところが障害になっているとかいうのがあったら、ちょっとお聞かせいただければありがたいなと思っています。

○荻部（カモシネマ19実行委員会代表）

SDGsブースに関してだと思んですけど、今年は水質保全に沿ったものを行う予定

でして、パネル展示を中心に行う予定です。案として水質保全セミナーみたいなものを実施する予定でもあったんですけども、こちらがやはりなかなか私どもにしっかりとしたノウハウがない中で、どのように行って行くべきなのかというところでちょっと悩んでおまして、そこ、一応案としては出てはいるんですけども、実行に踏み込めないという現状があります。

このような形で去年はSDGsパネル、東北のほうから取り寄せる形になったんですけども、完全にそちらのほうのパネル任せになってしまったというか、やはりそういう屋外でいろんなことを行うという上で、そちらにSDGsを展示してクイズ化して理解を深めていただくという形にはしているものの、どうしても「かもあそ」、この縁日企画のほうに我々の当日の動きとしては注力が行ってしまうので、そこがどういうふうに動かしていこうかというところが、これからも企画を続けていく上で考えるべきところかなというふうには思っております。

○川崎

ありがとうございます。また環境とか水質とかということであると、立命館大学の市木先生とか、我々のとこの大学にもそういう専門の方がおられるので、ぜひ御相談いただけたらまた御対応させていただきます。

○荻部（カモシネマ19実行委員会代表）

ありがとうございます。

○金田座長

どうぞ。

○戸田

いろいろと考えてやられていて、また御苦労されているのがよく分かりました。ちょっと細かなことで1点だけお聞きしたいんですが、映画を選定されて上映されるんですけども、この資料の中にあるコマーシャルを読ませてもらっても、ちょっとどんな映画かというのが私全く理解できないんですね。御存じの方はこの名前を聞いたら分かるかもしれませんが、「リバー」と出てきてその後に「流れないでよ」と来たら、ちょっと私としても河川を扱っていた人間としては極めて違和感を感じざるを得ないんです。（笑）

それはちょっと置いておいてですね。どんな映画なのかということのか分からないと、様々な人の名前が出ているけど、私この方々、残念ながら存じ上げませんので、これ、ちょっと見ても、よっしゃ、行こうという気にはならないんですね。別に嫌みを言っているわけ

じゃないんですけども。せっかくこういう資料を作ってこういう場で御発表されるんだっ
たら、そのあたりの何かどこが売りやということはやっぱり考えて活動されたほうがもっ
ともっと皆さんにPRできるかと思えます。以上です。

○荻部（カモシネマ19実行委員会代表）

御意見ありがとうございます。「リバー、流れないでよ」の大まかな粗筋といたしまし
ては、京都・貴船の老舗料理旅館「ふじや」さんの中で、時間が2分で繰り返される、ル
ープしてしまう中で、いろんな登場人物が困惑しながら試行錯誤していく群像劇というふ
うになっておりまして、この手のという言い方をするとあれなんですけど、こういうふう
な形の作品は近年よく見られる傾向にあるというか、人気な形にはなっておりまして、そ
ういう点で、よく最近サブカル好きの若者、大学生とかにも届くといえますか、来ていた
だく、関心を持っていただける映画にはなっているかなと思っております。

○戸田

そういう意図があってされているならそれで、何となく分かりました。ところで、見に
来られるのは若者ですか。おじいさん、おばあさんなんかの人はここで見て分かるかなと
いう気がして。

○荻部（カモシネマ19実行委員会代表）

そうですね。我々の目的、意義のところちょっと不足していた部分がありまして、地
域の方々の交流を深めるということなんですけども、地域の方々同士の交流を深めると
いう意味もあるんですけども、私ども大学生であったりとか、ほかに「かもあそ」で今年
協力していただく予定の大学生団体がございまして、その大学生と地域の方々の交流を深
める、そして地域に一度に集まって地域を盛り上げる、こういうふうになっておりますの
で、もちろんそういう様々な年齢の方々に楽しめるイベントにはなっていると思うんです。
その中でも我々と同年代の方々にも多く来ていただきたいなと考えています。

それから、粗筋など、そういうふうな映画の内容に関しましては、ここでは、すいませ
ん、情報不足だったかなと思うんですけども、これから我々がいろんな形で発信させてい
ただいて、映画の内容自体に興味を持って御来場いただけるように尽力する所存でござい
ます。

○金田座長

ありがとうございます。

何かほかによろしいでしょうか。

○戸田

私は聞いたことも、ささいなこと、私がちょっと分からないことを聞いただけで、今までやっている方法なんかも考えながら、有意義で、かつ、皆さんにうまくPRできるものをつくってもらったらいいかと思います。以上です。

○荻部（カモシネマ19実行委員会代表）

ありがとうございます。

○金田座長

あと、よろしいでしょうか。

そうしましたら、いろいろな関連イベントを御紹介いただきました。

次の議事の4番目に書いてあります第7回鴨川オオバナミズキンバイ駆除活動につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

○中島（京都府自然環境保全課自然環境係課長補佐兼係長）

失礼いたします。京都府自然環境保全課の中島でございます。本日どうぞよろしく願いします。座って説明させていただきます。

お配りさせていただいております資料5を御覧ください。

オオバナミズキンバイの駆除活動については、昨年度もこの場をお借りして情報提供させていただいたところです。

オオバナミズキンバイは、特定外来生物である水生の植物でございます。鴨川における繁殖エリアの拡大防止を図るため、京都府鴨川を美しくする会様、鴨川流域ネットワーク様と、今回第7回目となります駆除活動を来週の日曜日、6月30日に実施させていただくこととしております。場所は、正面橋から塩小路橋を中心に防除活動を予定しております。

オオバナミズキンバイにつきましては、ボランティア団体様の御協力を得ながら継続的に駆除活動を進めておりますとともに、専門業者による駆除活動事業と組み合わせながら拡大の防止に取り組んでまいりたいと考えております。

説明については以上でございます。

○金田座長

何か御質問。どうぞ。

○藤井

私が令和2年にこの鴨川会議のメンバーをさせていただいてから、このオオバナミズキ

ンバイの話は何回もテーマで出てきます。前回のこの会議で、オオバナミズキンバイの分布状況が令和4年は140か所やったけども、342か所でもう倍増以上しとったという話やったんです。鴨川を美しくする会がやっているところは拡大防止、縮小の効果が見られるんやけども、物すごく多いですよ、三百何か所やから。

それで、私は退職してからはサンデー毎日なので図書館によく行くんですけど、そこで京都市の環境局が出している生物多様性の小冊子とか見るんですけど、オオバナミズキンバイのことが全然出てこないですね。それと、やっぱり図書館できょうと生物多様性センターというニュースレターとか見るんです。これは京都府と京都市が設立された団体というんですけど、ここでは、鴨川は様々な生き物のすみかになっていますと書いて、このセンターは京都市における生物多様性の拠点となることを目指していますとか書いてあるけど、ここでもオオバナミズキンバイの話は出てこない。

今回のこの資料を見ている、このきょうと生物多様性センターとかが共催にも後援にもなってないけども、これ、ちゃんと京都府全体でこういう機関とかと相談してやってはるんですか。せっかくこんな総合地球環境研究所とか京都府立大学とか連携してデータを全部集めてはるんやったら、例えば霞ヶ浦ではどうなっているんやとか、琵琶湖、滋賀県ではどうやっているんやとか、そういうのもこういうふうなセンターと全部連絡してやってはるんですか。ただここで鴨川でやってはるだけ、鴨川のこここのところがたくさん出るからいうてやってはるわけですけど、もっと全体で連絡を取ってやってはるんですか。

○杉江

お答えします、会のほうから。この駆除活動はちょうど元年から始まっております。そもそもこれは琵琶湖のほうの疏水を使って来ています。そこで、本来は京都市のほうももっと積極的な駆除のほうに力を貸してもらいたいことなんですが、京都市からは環境管理課と上下水道局が来ていただいております。

メインは基本的には鴨川ということで、京都府が管理しているという位置づけで元年からずっとやとるんですけども、しつこいこれは外来生物でね。かなり取ったと思っても、1年たてばそれ以上に増殖しているという状況ですので、これはある面から言うたら、琵琶湖のほうはかなり多くの予算を費やして駆除作戦をやっておるんですけども、毎回この作業においては、関係者に対して土木事務所のほうで説明会をしております。そのときは滋賀県から担当者が来て、こういうものということでスライドを見ながら駆除方法とかということも指導を受けてやっておる状態ですのでね。多分今おっしゃられたことについて

は、京都市のほうの発信力が弱いのかなと思ったりはしておるんです。

ただ、なかなか難しいのは、場所的に五条から以南、下流のほうですね。ですから、常に皆さんには目に触れないということがあるのでね。だから、そういった面においてなかなか広報活動が行き届いてないというのが現状とっております。

以上です。

○金田座長

よろしいですか。

○中島（京都府自然環境保全課自然環境係課長補佐兼係長）

ありがとうございます。今、杉江様に御回答いただいたとおり、滋賀県様とも京都市とも連携を取って活動しているところではございます。ただ、元年から美しくする会様の力をお借りしてやっているということで、今、この3団体を主体としておりまして、京都市についてもお声がけをさせていただいて、実際に当日数名来ていただくことになっております。きょうと生物多様性センターも京都府と京都市の協調でつくった組織ですので、当然に情報共有をしておりますが、今回、一般公募をしたものではございませんので、例えば来年以降一般公募を検討していくときには、きょうと生物多様性センターからの発信なども検討していきたいなと思っております。

補足にはなりますが、きょうと生物多様性センターでは昨年度、外来生物関係の啓発冊子を作っておりまして、その中には鴨川のオオバナミズキンバイも掲載をさせていただいているところです。

以上でございます。

○金田座長

ありがとうございます。

ほかによろしいでしょうか。

私ごとで恐縮ですが、オオバナミズキンバイも、この写真のような黄色い花が咲いているときは分かるんですけど、花が咲いてなかったら分からないんですよ、どれがどれかというのが。ともかく、なかなか駆除は大変な大仕事だと思います。どうぞよろしく願いいたします。

どうぞ。何か。

○中村

この花、もうちょっとピントが合うてたらよかったのにね。それと、主催はどこなんで

すか。主催が抜けていると思うんですけど。こういう資料を見たら、一番に主催と入れるんですけどね。悪い癖かもしれませんが。主催を分かるようにしてください。

○中島（京都府自然環境保全課自然環境係課長補佐兼係長）

主催は、共催と書いているところが主催の間違いでございます。

○中村

それはおかしいですよ。主催と共催は違いますからね。主催はどこですか。

○中島（京都府自然環境保全課自然環境係課長補佐兼係長）

京都府と鴨川を美しくする会様、

○中村

京都府ですか。

○中島（京都府自然環境保全課自然環境係課長補佐兼係長）

そうです。そして、鴨川流域ネットワーク様。共催を主催と間違って記載しております。

○中村

共催と主催は違いますよね。と思うんですけど。

○金田座長

ほかに何か。

もしよろしければ次に行きましようか。議事の5番目です。「鴨川四季の日」実施状況と予定等についてです。説明お願いいたします。

○西村（京都府建設交通部河川課管理係技術指導員）

失礼します。京都府河川課、西村でございます。よろしくお願いいたします。座って説明させていただきます。

資料6を御覧ください。

「鴨川四季の日」の実施結果と予定等についてを御説明させていただきます。

まず、「鴨川四季の日～春～」の実施結果でございます。今年の春は令和6年3月1日から令和6年5月31日までとさせていただきます。

1ページを御覧いただきますと、この期間内の関連イベントとして、4月6日、7日に鴨川を美しくする会、京都鴨川ライオンズクラブ様が主催されました第50回鴨川茶店が開催されました。例年多くの方が訪れるイベントではございますが、今年は大変天気にも恵まれ、約1万2,000の方が来場されたと聞いております。ちょうど咲き始めたしだれ桜を見ながら二條流の煎茶を頂くなど、楽しんでいただいたところでございます。

次に、2ページを御覧ください。

春の河川美化活動でございます。4月22日のEARTH DAYクリーンアップイベントというのが今年から京都府、京都市が連携して実施されております。約50名の方で清掃活動を行い、鴨川を美しくする会の方も御参加いただいております。

また、その下でございますが、4月29日には鴨川を美しくする会と流域ネットワークが主催されております第1回の鴨川定例クリーンハイクが開催され、何と270名、非常に多いんですが、の方々に御参加をいただいて実施いたしました。

次に、3ページを御覧ください。

河川美化と清掃を組み合わせた鴨川合同パトロールを3月15日、4月19日、5月24日の3回、この期間に実施いたしております。観光客を含む多くの河川敷利用者に対しまして、ごみは御自分で持ち帰っていただくということと呼びかけさせていただきました。

お写真をちょっと御覧いただきますと、当日、学生ボランティアで多くの方が御参加いただいておりますが、ちょうど緑色のゼッケンをつけているのが学生ボランティアの方々でございますが、積極的に啓発に、または清掃に御参加いただいたという状況でございます。

4ページを御覧いただきます。

4ページには、そのほかの情報発信として、京都府のホームページや京都府庁のロビー展示の実施が記載されております。

次に、「鴨川四季の日～夏～」ということになってまいります。6月1日から8月31日までの期間になります。先ほど関連イベントとして御説明がありました鴨川納涼2024、カモシネマ19などが対象になってまいりますし、先日開催されました第2回の定例クリーンハイクなどがこの期間の関連イベントとして位置づけられておりますので、次回の夏の報告のほうでさせていただきたいと思っております。

説明は以上でございます。

○金田座長

鴨川四季の日について何か御質問や御意見などありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

そうしましたら、四季の日ではないんですが、そのほかの事象につきまして、その他のところですが、説明をお願いいたします。

○藤田（京都府建設交通部河川課参事）

京都府河川課の藤田でございます。資料7を御覧ください。

この鴨川府民会議でもご議論いただきました鴨川での看板のサインです。京都女子大学の学生さんに研究いただきまして、平安貴族の装束をモデルとしながら、鴨川条例で禁止されているような事項を新しい看板にする際にデザイン化したということで、前回の会議でも取付けが始まったということで御報告させていただいたところです。

やはり関心が非常に高く、新聞やインターネットでも報告されましたという御報告でございます。

実際に京都女子大学の学生さんがフィールドワークをされて、観光客の皆さんや地元の方にこの看板は景観にマッチしていますか？というインタビューをされていらっしゃいまして、多くの方はマッチしているというようなこともありました。

年配の方は英語だったら分からないなとかいうようなこともあったりで、なかなか景観とマッチさせながら注意喚起するのも難しいところもありますが、こういったデザインは概ね皆さん好意的におおむね取っていただいていたかなというところでございます。

以上です。

○金田座長

この看板につきまして何か御質問などもしありましたら。

よろしいですか。

それでは、引き続きお願いします。

○藤田（京都府建設交通部河川課参事）

引き続き、資料の8です。

これは、出水期、いわゆる大雨の季節がやってきております。水害防止のために最近の洪水の記録や台風が来たときの写真を掲示して啓発しています。

また、昭和10年に京都で大洪水が起こったというようなことをも周知しています。

京阪三条駅のちょうど鴨川に向かって上っていく階段付近にあります駅長室の横に貼らせていただきました。これは京阪電車に御好意で貼っていただきまして、雨の中でしたら、そこで一旦待つ方もいらっしゃいますし、見ていただくこともあると思ひまして、これまであまり京阪電車さんとかこういう協働ができていませんでしたので、鴨川の景観やごみ問題もあるんですけど、やはり水害への危険周知ということもしっかりしていきたいなというふうに考えておるところでございます。

以上です。

○金田座長

ここは以前に鴨川を美しくする会でも京阪の駅のところでパネルをしておられましたね。

○杉江

はい。

○金田座長

同じ場所ですか、ここは。

○杉江

いや、ちょっと離れています。

○金田座長

私が質問しているだけで、ほかに御質問などございませんでしょうか。

ありがとうございます。

それでは、続けていただきます。

○藤田（京都府建設交通部河川課参事）

資料9を御覧ください。

ただいま開催中でございますけれども、上京区役所のホールにおいて、鴨川を美しくする会様の展示会を開催中でございます。開催2日目にはNHK京都さんが取材に来られて、6時半のニュースで紹介いただいたということでございまして、昨日も京都新聞にも出ていたのですが、もしお時間あるようでしたらお寄りいただいて御覧いただけたらと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。

○金田座長

ありがとうございます。

上京区役所ですから、烏丸今出川通の西北側のところですね。

○金田座長

何か御質問。どうぞ。

○杉江

ちょうど今梅雨の時期で洪水等々の、この南のほうではいろいろなことになっていきますけれども、当然洪水の関係の写真も提示しておりますし、特に去年、おとしはずっと深夜清掃の関係もやっております、結構ごみの量が現在増えています。約3割以上増えているかなというよりか、一旦減ったり増えたり減ったりとかそんな感じで、今また増えてい

るんですけど。せんだって、今までの経緯を調べましたら、ちょうど平成二十八、九年からです。足かけちょうど8年ぐらいになるんですけど、インバウンドがきつかって、キャンペーンを2回か3回して、落ち着いたと思ったら、今度コロナで緊急事態宣言で、またごみが増え出して、それからずっと今平行線というか、右肩上がりみたいな状況になっておりましたね。

ちょっと危惧していることは、現在、東京の渋谷のほうというのはすごいですね、外飲みで。結構区のほうも規制していこうというような形になっておりますので、京都まで、そやけども、京都のほうも、祇園かいわい、舞子さんのほうの関係も結構オーバーツーリズムでいろんな問題が出ております。だから、鴨川も御多分に漏れずですね。観光客だけでもありません。地元の人が結構います。ですから、こういうことはあんまり考えたくないんですけど、第二、第三の渋谷みたいにならんほうがいいなとは思ってるんですけども、なかなか打つ手がないのでね。河川管理の部局の京都土木さんも頭を痛めておられるという状態で、我々活動していても、いつになったらこれが下火になるのかなど思ったりしているのです。

今日もマスコミの方が来ておられるのでね。マスコミの方々の力をお借りして、やはりもうちょっと世間に訴えていただきたいと、こう思っておりますどうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○金田座長

ありがとうございます。

事務局、何か。もしありましたらお願いします。

○島本（京都府京都土木事務所施設保全・用地課長）

京都土木事務所施設保全・用地課長の島本です。ごみ問題につきましては、先ほど説明ありました鴨川合同パトロールと京都府の委託業者による毎日の清掃とかという形で取り組んでおります。観光客が増えましたが、できるだけ、美しい鴨川を守っていけるように、これからも引き続き取り組んでいきたいと思っております。

以上です。

○金田座長

ありがとうございます。

事務局、ほかにその他は。これで終わりですか。

そうしましたら、本日、これで予定しておりました議事は以上でございます。

最後に3のその他というのがありますが、事務局の御連絡その他あると思います。どうぞよろしくお願ひします。

○藤田（京都府建設交通部河川課参事）

次回の開催の日程でございます。9月11日水曜日に同じこのガーデンパレス京都で開催することとなっておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

以上でございます。

○金田座長

それでは、どうもありがとうございました。

先ほどもちょっと申しましたが、今、梅雨入りとはいえまだ天気はいいんですけど、これから梅雨になると鴨川もまた増水したり水量の変動の著しい時期になると思ひますので、どうぞいろんなことをより多くの方々に知っていただくように、御協力をぜひお願ひいたします。

どうも本日はありがとうございました。

○藤田（京都府建設交通部河川課参事）

ありがとうございました。これにて終了させていただきます。

〔午後 3時00分 閉会〕